医師会活動を通して

医師会活動を通して声を挙げたい．医師数を増やせばという問題ではないのである．安心して子育てしながら，介護しながら医師という天職を全うしたいのである．

また，１つには患者の受診行動にも問題があると思う．救急外来への来院のかかり方を考察しても分かるように日頃から患者さんに対して啓蒙が必要だろうと考える．

小児夜間急病センター担当で出動した時に母親によく話をしている．来院してくる母親の心配は理解できるが身近にすぐ相談できる子育て経験者がいなくて不安でやってくるのだからやむをえない．

大学病院の夜間救急外来では本来の救急患者でない人の対応で医師の疲弊が起きている．行政の関与も必要で市広報誌などでの『救急外来のかかり方』なるものを掲載してもらっている．どこまで読んでくれているか？

外来での患者さんとの話しは自分にとってとても大切な時間である．年配の人からは人生の浮き沈みを聞いたり，学生さんからは今時の若い人の考えに接することができたり，無駄な時間ではない．診療外で得られるものが多い．

医師会活動に参加してからそれまでとは全く別の職種の方々と懇談する機会が多くなり，狭かった自分の世界が少し広くなったかなと思える．相手の側も医者，先生というあるイメージを持っていた方がいろいろ話をしているうちに“ちょっと違っていたわ”と言われたことがある．こんなことはどこでもあることでしょうが．人というのは見た目と違う側面があって話をして別の面をみて改めて

という思いもあり，独立してやってみようと考えました．現在，細々と展開しており，課題はたくさんありますが，自分自身で組織をマネージするという経験は重要であると思うようになっています．

9 東京医科歯科大学の特任教授（50歳～）

いろいろなご縁があり，平成20年9月から，東京医科歯科大学の女性研究者支援事業に関わることになりました．理科系の女性比率が少なく，キャリアが中断しやすいことを，いかなる組織整備，意識改革を行えば，改善できるのか，というモデル支援事業です．国立系の大学は初めてで実にいろいろな驚きがありました．研究者および医療者の支援を実践的に行いたいと考えており，今後の活動について，またご報告できる機会があると良いと思っています．

日本女医会には理事として参画し，現在，女性医師支援委員会の委員長です．女性医学生，医師のためのキャリアデザインセミナー，女性医師に関するデータ収集とライブラリー化，ネットワーク化を考えています．日本の医療問題が女性医師問題には集約されていると考えています．日本医師会，地区医師会，大学などの動きも活発になっており，日本女医会もさまざまな組織と有効な連携を築き，次の医療を担っていきたいと考えています．

一番嬉しかったこと

一番嬉しかったのは，妊娠が分かった時です．天にも昇るような感じ，自分にこんなことが起こるのだとものすごく不思議な感じがしました．今でも，当時のことを思い出すと，あの時の感動がよみがえってきます．